

וַיְהִי רָעַב בְּאֶרֶץ וַיֵּרֶד אֲבָרָם מִצְרַיִם לָנוֹר שָׁם כִּי־כָבַד הָרָעַב בְּאֶרֶץ:



way|hî rā|'āb bā|'ā|reṣ way|yē|red 'ab|rām miš|ray|māh lā|gûr šām kî-kā|bēd hā|rā|'āb bā|'ā|reṣ.

節の外観。アクセントの移動等による母音変化、表記法の違い等に注意。

וַיְהִי רָעַב בְּאֶרֶץ וַיֵּרֶד אֲבָרָם מִצְרַיִם לָנוֹר שָׁם כִּי־כָבַד הָרָעַב בְּאֶרֶץ:

12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

[2023年7月8日] この節の品詞毎の色付けが合っていれば（10が動詞かどうか？母音が状態動詞のような？）、修飾関係から語と語のつながりが分かり意味はより分かるかもしれない。

大体の意味は「**רָעַב**」がその地にあった時、彼・**אֲבָרָם** は **מִצְרַיִם** に向かって、そこで **נֹר** のために、**יֵרֶד** する。実に、彼は、その **רָעַב** がその地で、**כָּבַד** した。」となる。

語の変化について

1/12 וַיְהִי way|hî

- 教科書§25-4 wayhî (וַיְהִי) / wəhāyāh (וְהָיָה) 構文に『その後主として「時」を表す語句や節 (אֲחֵרִי / אַחֲרַי 「~の後で」、-יָבִי, -יָבִי, -יָבִי לְאִשֶּׁר 「~の時、~した時」など) を伴い、新しい話題や出来事を導入する際の一種の定型表現を構成する。וַיְהִי は過去の出来事の導入に、וְהָיָה は未来の出来事の導入に用いられる。וַיְהִי 構文の方が圧倒的に出現率が高い。なお、וַיְהִי / וְהָיָה には対応する主語はなく（非人称的）、常にこの形で使用される。文法的には וַיְהִי / וְהָיָה が無くても意味に変わりはない。① wayhî + 時を表す語句 ~ wayyiqtol 形 = 過去の出来事の導入、② wəhāyāh + 時を表す語句 ~ wəqatal 形 = 未来の出来事の導入』とある。
- BDB. 『וְהָיָה vb. fall out, come to pass, become, be ... I. 1. a. Fall out, happen II. Come into being, become: --- 1. a. abs. in lively narrative, arise, appear, come ... also of concrete objects hhhh Gn 9:16 (P) and the bow shall appear in the clouds (|| h224) h224 Ex 16:24 (P) and worms did not appear in it; of condition or action begun & continuing, as: [famine Gn 12:10](#),』

2/12 רָעַב rā'āb

1. 語の外観：וַיִּהְיֶה の後なので名詞らしい？索引を見ると動詞の可能性もあるがその可能性は薄い？
2. 教科書を見ると、『飢饉』等の意味がある。この語の意味が分かると以下の話の筋が分かってしま
う(;^_^A。
3. BDB. 『רָעַב: רָעַב n.m.:Gn 26:1 famine, hunger;—abs. רָעַב : Gn 12:10 +; sf. רָעַבְתִּי Ne
9:15; 1. **famine (in land, nation or city), Gn 12:10, ... ; ... ; c. כָּבֵד Gn 12:10 ... ,**』

3/12 בָּאֲרֵץ bā'pā'reṣ

1. アクセントと語の外観：接頭前置詞＋冠詞＋名詞

4/12 וַיִּרְדַּע way|yē|red

1. 語の外観：wayyiqtol 形動詞、人称接頭辞の母音が e- 長母音になっている。（アクセントはここ
にある。？）したがって、I-ו 動詞かもしれない。その場合には元の語は וַיִּרְדַּע になる。また、
II の母音が e 短母音になっているがこれは？
2. 索引を見ると、ye-e. は無いが、wayye-e. וַיִּשָּׁב 1st ' Qal Prefix/wawcon と 1st ' Hifil
Prefix /wawcon の二つがある。
3. 教科書を見る。1st ' について、㊦未完了・パアル形、㊧未完了・ヒフイル形をみる。㊦人称接頭
辞と語幹母音について§28-2 I-ו 動詞及び הִלָּךְ の未完了変化、-変化上の注意-に『㊧ I の ' が
消失し、人称接頭辞は e- を取る。語幹母音は e- を取る e-型。ただし、וַיִּרְעַע はIII-喉音のため、
語幹母音はパタフ a を取る a-型。』とある。したがって、この 4 וַיִּרְעַע の未完了形・単3男は
וַיִּרְעַע となる。そして、§28-4 I-ו 動詞及び הִלָּךְ の要求形と wayyiqtol 形に『I-ו 動詞及び
וַיִּרְעַע の要求形（単2男、単3男女の希求形）は、アクセントが人称接頭辞に移動し、未完了形
とは異なる語幹母音を取る（III-喉音、III-ס 動詞については下記㊧参照）。wayyiqtol 形にはこ
の要求形を用いる。なお、複1の wayyiqtol 形もこれに準じて作られる。』とある。וַיִּרְדַּע が用
例に使われている。『וַיִּרְדַּע 下る、単3男の未完了 וַיִּרְדַּע、要求 וַיִּרְדַּע、wayyiqtol וַיִּרְדַּע』と
ある。㊧ヒフイル形について。教科書には וַיִּשָּׁב について、未完了形、要求形、wayyiqtol 形に
ついて記載がある。しかし、パアル形とヒフイル形では変化形が異なっている(cf. §39-4)。索引
の間違い？

4. BDB. 『 יָרַד vb. come or go down, descend....---Qal; Impf. ; יֵרֵד Gn 11:5+ ... ;---1. a. come or go down: from (מִן) a mountain d. go down (abs.) from Palestine to Egypt Gn 42:3(E), ; sq. מֵעַרְיָמָה Gn 46:3, 46:4, 12:10 』

5/12 אֲבָרָם ᵅab|rām

6/12 מִצְרַיִמָּה miṣ|ray|māh

7/12 לָגוּר lālgûr

- アクセントと語の外観：語頭に接頭前置詞？その後アクセントがある。この語は一語あるいは接頭前置詞＋名詞類（あるいは動詞類？）？単音節に接頭前置詞が付いた形とすれば前置詞の母音はあっている。二語の場合には、（名詞類か動詞類かを判断するには周りの語を見るとこの語の後に שָׁם 副詞があることから前にある語は動詞類と考えられる。ここで最初に戻って修飾関係から文の構成を再度見てみる。）
- 索引で u-. (gûr גוּר) を見ると、u-. קוּם Sg.2m. Hollow Qal Imperative, Qal Infinitive Construct と מוּתָה Sg.2m. Hollow Qal”E” Imperative, Qal”E” Infinitive Construct との二つの語がある。ここでは、接頭前置詞が付いているので Infinitive Construct、教科書では第一不定詞が該当すると思われる。
- 教科書を見るとそのものについては『動詞、寄留する』がある。第一不定詞については、§20 不定詞（1）に記載がある。用法について、§20-4 不定詞の用法（1）に『しばしば前置詞 לְ を伴い（前置詞 לְ が無くても、意味は変わらない）、英語の to-不定詞に類似した用法がある。』とあり、用法としては『(a)名詞文の主語として、(b)動詞の目的語として、(c)形容詞的用法、(d)副詞的用法（目的、結果、手段、方法）、(e)その他、...』とある。また、§20-5 不定詞の用法（2）もある。
- BDB. 『 + I . גוּר vb. sojourn⁸ ...---Qal ; Infinitive cstr. גוּר Gn 12:10+17t.; ... ;---1. sojourn, dwell for a (definite or indef.) time, dwell as a new-corner (cf. יָרַד) without original rights,; also Gn 12:10, 20:1, ... 』

8/12 שָׁם šām

- アクセントと語の外観：単音節語、副詞「そこに there」。

8 sojourn — 1 […に] 逗留(とまりゆう)する [at, in] .2 […の家に] (一時的に)滞在する [with] .— 逗留, 滞在.
~ · er

2. BDB. 『 שָׁם adv. there, thither ... 』

9/12 כִּי kî-

1. 教科書で וַיְהִי を探すと、§25-4 wayhî / wəhāyāh 構文に 『וַיְהִי / וַתְּהִי』 は、その後に主として「時」を表す語句や節（ אַחֲרַי / אַחֲרַי 「～の後で」、-בְּ-, -כְּ-, -כִּי, לְאִשֶּׁר 「～の時、～した時」など）を伴い、新しい話題や出来事を導入する際の一種の定型表現を構成する。 וַיְהִי は過去の出来事の導入に、 וַתְּהִי は未来の出来事の導入に用いられる。 וַיְהִי 構文の方が圧倒的に出現率が高い。なお、 וַיְהִי / וַתְּהִי には対応する主語はなく（非人称的）、常にこの形で使用される。文法的には וַיְהִי / וַתְּהִי が無くても意味に変わりはない。』この中に書かれている כִּי に該当するのか？
2. BDB. 『 כִּי conj. that, for, when (Moab. id.; Ph. כ. Prob. from the same demonstr. basis found in kay here, and in certain pronouns, as Aram. כִּי this (W:SG 110 f.); perh. also ultim. akin with kay that, in order that, and d then, enclit., like Lat. nam in quisnam?)—1. that (ὅτι, Germ. dass): a. prefixed to sentences depending on an active verb, and occupying to it the place of an accus.: so constantly, after vbs. of seeing,... 』

10/12 כָּבֵד kāl|bēd

1. アクセントと語の外観：アクセントは語尾にある。この語の前の כִּי とマケフで繋がれている。動詞？あるいは名詞？
2. 教科書を見る。§14-3 形容詞をニスマフとするスミフトに 『יוֹסֵף יָפֵה-תָּאֵר』 ヨセフは姿（ יָפֵה-תָּאֵר ソメフ）が/において美しい（יָפֵה は יָפֵה のニスマフ）上文で、形容詞をニスマフとするスミフトは、ソメフとなる名詞が<着目する部分>を、ニスマフとなる形容詞が<その性質、属性>を表す。「類例」： כָּבֵד-פֶּה אֲנֹכִי 私は口が重い（כָּבֵד）。=口下手だ。』がある。

また、§18-4 状態動詞と形容詞に

『(a) 状態動詞には、「～（の状態）である」（cf. 日本語の形容詞、形容動詞）という静的な意味と、「～（の状態）になる」という動的な意味がある。 כָּבֵד 重くある、重くなる

(b) 状態動詞の完了形単3男と形容詞の単男とはしばしば同形である。この場合、動詞か形容詞かの判別は文脈によらなければならない。

הָרָעַב כָּבֵד : { (i) 飢饉がはげしい。 [形容詞]
 (ii) 飢饉が激しかった (激しくなった)。 [完了形]

(c) 主語が単数、又は複数の場合、動詞か形容詞かの区別は明らかである。

הַמְּלָחָמָה כָּבְדָהּ : その戦いは激しくなった。 [完了形]

הַמְּלָחָמָה כָּבֵדָהּ : その戦いは激しい。 [形容詞]』とある。

3. BDB. 『 כָּבֵד vb. be heavy, weighty, burden-some, honoured ; Impf. יִכְבֵּד Ex 9:7 Is 66:5; יִכְבֵּד Jb 6:3, 33:7 + 10 t. Impf. (כָּבֵד Gn 12:10 + is given as 3 m. Pf. by some; but it is prob. taken better as adj. SS make כָּבֵד Psalm 38:5 inf. abs.; < Thes adj.). 1. 』があり、『 + כָּבֵד adj. heavy ;; ---1. a. heavy, a burden Psalm 38:5; hands (weary of holding up) Ex 17:12(E), hair of head ; a famine Gn 12:10, ... 』がある。

11/12 הָרָעַב hā|rā|‘āb

12/12 : בָּאֲרֵץ bā|pā|reṣ